

家族を守る防災学習 次世代を担う 子どもたちに向けて

今やらなければならないこと

そして未来に向かってやらなければならないこと

〔氷丘南小学校の総合学習発表会で話したものです〕

災害は、間違いなくやってきます。それは、いつやってくるのか全く判りません。今、この瞬間に発生するかもしれません。

しかし、確実に言えることは、きみたちの人生の中で阪神淡路大震災以上の巨大地震を、最低でも二度経験することでしょう。それは山崎断層地震と南海地震です。そして、それら災害は、何の前触れもなく突然にやって来ます。準備している人にも、準備できていない人にも区別なく襲ってきます。

もしも、きみたちが地震とその後の災害に遭遇した場合、きみときみの大切な家族がどんな危険にさらされ、日常生活がどうになってしまうのかを想像してほしいのです。



これは「災害イメージネーション能力」と言います。災害をイメージする力があれば、地震が起きた後、きみたちがどういう状況に置かれるのか、その為に何をしておくべきなのか、前もって具体的に判ります。地震が起きる前にできることの多さ、使える時間の長さは地震が起きてからと比較になりません。イメージネーション能力を働かせることができれば、多くを先取り先回りし、きみが受けるであろう被害をあらかじめ軽くすることができるのです。



逆に言えば、いくら防災の知識を蓄え、どんなに備えを重視したつもりでも、自分が受ける被害を想像した上でなければ実はあまり意味がありません。

人間は自分が認識したり想像したりできない状況に対して、有効な対策や準備をすることはできないのです。

もし、きみたちに伝えることができるものがあるとすれば、それらは過去の災害が教えてくれた教訓や、最新の研究から得られたデータだけなのです。そして、きみたちに伝えることができるものがあるとすれば「死なないための対策」が最優先であるということです。

阪神淡路大震災では、地震発生から15分以内に8割以上の人が亡くなっています。神戸市内では建物の倒壊や家具の転倒などが83%を占めています。残りの死者

のほとんどは火災で亡くなっているのですが、その多くは建物の下敷きになって、逃げ出せずに火事に襲われて亡くなってしまったのです。消火活動の問題以前に、建物自体に問題があったことがこれで判ります。

消火訓練も間違いなく大切です。しかし、それ以前にしておかなければならないことがあるのも事実です。「水と食料の準備」や「すぐ火を消せ」など、地震や災害後の対応を重視する従来の防災対策から一歩踏み出してください。



必要なのは、地震や災害の瞬間を生き抜くことです。そして、次に自分の力で3日間生き残れる態勢を整えることです。そうすればきみたちは必ず助かります。もし、きみたちが「防災」というものを記憶の片隅に置いてくれるのであれば、「災害イメージネーション能力」を高めることをしてください。

まず最初に、自分が助かる方法を考え、実践することで、その次に、自分の大切な人を守る方法を考えること、そして、将来に向かって、自分たちが助かるための方法を次の世代の人たちに受け継ぐことがなにより大切なのです。どうか「自分が助かる方法」を身につけてください。これが何より大切なことです。

・・・等のお話をしてきました。

今、私たちがすべきことは何なのか？

それは、間違いなく自分と自分の大切な人を守ることができるようになることなのです！

その次に余力があれば、近所の人達を助ける事なのです。しかし、みんなが自分と自分の大切な人を守ることができたのなら、これほど強いまちはないでしょう。

あえて、ここで強く申し上げます！

もしも、災害に襲われたとき、グリーンシティ防災会の役員がすぐに助けに来てくれると思わないでください。なぜなら、その瞬間に役員がマンション内にいるとは限りません！いや限りなく居る確率の方が低いでしょう。また、それぞれの家族の安全が確認できなければ、役員といえども自分の家族を放っておいてまでの活動はできません。

災害！その瞬間は自分で自分を守ることしかできないのは事実なのです。

私たちグリーンシティ防災会が行っている活動は、災害が発生するまでの使える時間内で、今できることから行っています。是非、みなさまもチャンピオンマップに登録することや防災学習会にご参加ください。そして、「災害イメージネーション能力」のアップを図り、自分の大切なものだけは**自分で守れる**ようにしておきましょうね。